

令和5年度温泉熱有効活用に向けたコンシェルジュ事業
結果報告（三島町）



令和6年2月20日
三島町 地域政策課

1. 三島町が本事業を活用した背景

背景

三島町振興計画とゼロカーボンビジョンの実現

- 地域内の経済循環 及び 地域外への資金流出を減らす。（経済的効果）
- 2050年時点の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする。（環境配慮）

三島町での再生可能エネルギー導入拡大を目指す

再生可能エネルギーの一つである **温泉熱利用**を検討

- 既に町営住宅（若者単身用住宅）の道路消雪で活用するも課題がある。
- 各温泉の状況に見合った温泉熱活用手段の整理が必要。

令和5年度温泉熱有効活用に向けたコンシェルジュ事業 を活用

2. 三島町における本事業内容について

第1回支援

8月23日：専門家派遣／勉強会、専門家による現地確認

- 温泉熱利用における基礎講座として町職員向けに勉強会・意見交換を開催。
- その後、各温泉施設の情報収集として専門家による現地確認を実施。

第2回支援

12月12日：専門家派遣／勉強会、意見交換会（担当職員・源泉管理者向け）

- 第1回支援の状況を踏まえ、各温泉の現状に応じた温泉熱活用方法の提言を受ける。
- 併せてポテンシャルの算出方法や調査と検討の進め方の助言も受ける。
- 上記を踏まえ、専門家と担当職員及び源泉管理者にて意見交換を実施。

第3回支援

2月6日：オンライン開催／町の方向性と検討内容の相談

- 過去2回の支援を受けて、町で温泉熱利用の方向性を整理。検討内容を専門家へ相談。
- 上記の助言、次年度（計画策定等）に向けた準備への助言を受ける。

温泉熱利用の方向性が定まり、**検討の足掛かりを築く**有効的な事業となった。

宮下温泉「ひだまり」・「福寿草デイサービス」



【検討内容】55℃の温泉（泉量：約100ℓ/分）にて熱交換を行い45℃の温水を作る。この温水を温泉施設「ひだまり」と併設する「福寿草デイサービス」のシャワー給湯用ボイラー及び暖房用ボイラーの補給水として使用することで、灯油使用量(約17kl/年)が削減でき、CO2排出量とエネルギーコストの削減が見込める。

